

選考委員のコメント

○ 教師の指導の狙いが明確で、児童の実態に応じた適切な素材・指導方法が取り上げられている。特に、著作権者の心情を十分に意識させることで、その権利を尊重しようとする意欲を喚起し、さらによりよい社会を築いていこうとする態度まで育成する流れは、他校における実践の参考となると思われる。

○ CM作り実践主題に、情報の向こう側にいる「人」に寄り添った著作権授業を目指した授業として、子ども達の興味関心を高めた授業である。著作権に関して、自分目線での子ども達の考えから幼少時期に親しんだアンパンマンの作者であるやなせたかし氏の思いを伝えたことは子ども達の心に響いたと感じた。

○ 「ゆらぎ」を生み出すための導入や、やなせたかしさんが亡くなったタイミング、学級内イラストコンテストの開催、CM作りと、授業デザインの工夫がみられる素晴らしい実践だと感じる。タブレット端末を活用した動画作成（CM）について、他のクラスへの公開ではなく一般公開にすれば導入で動画投稿サイトを扱ったこととつながるのではないだろうか。

○ 子どもたちの身近な素材を事例として扱い、計画・実践・分析がしっかりと出来ている素晴らしい事例である。「総合的な学習の時間」の趣旨もよく活かし、CMづくりを通して著作権の内容にも能動的に取り組んでいる。子どもの変容のプロセスもよくわかる報告である。

○ 学年にふさわしい題材と内容で、進め方、学習への動機づけ、理解、伝達活動など、能動的な学習に至るものが工夫されている。アンパンマンを用いた授業は、多くの小学校でも導入したいと考えたと予想でき、波及効果の高い実践として、今後の改良・普及が期待される。なお、文化庁「はじめて学ぶ著作権」教材もやなせたかし氏のキャラクターを用いており、やなせたかし氏の作者としての著作権に関するメッセージが収録されているので参考としてほしい。

○ アニメキャラクターを使用することで、児童が著作権に興味をもてる内容になっており、座学以外にも実践的な取り組みを行っている。レポートでは、板書計画が充実している。

○ 子どもたちの実態からスタートしており、変容が手にとるように分かる優れた実践である。はじめは小学5年生には難しい展開かと思ったが、授業の実際を読むと、子どもたち

が自然に考え取り組める工夫が各所にしてあり、また児童の変容から十分に理解していることが分かった。CMづくりというと多くの教師は躊躇するが、今はプレゼンテーションソフトを使えば簡単なCMを創ることができるし、動画はデジタルカメラで撮ってプレゼンソフトに取り込むことができるので、他校でも実践可能なのではないか。

○ 著作権は法律に定められているから守らなければならないという意識になりがちであるが、「著作権を守ることは人を大切にすること」「情報を活用する時はまず相手のことを考えること」ということを伝えようという着眼点は見事である。また、「動画投稿サイト」等、子供達がより興味を持つ身近な事例を素材として活用する授業の組み立て方もよかったと思う。

○ 児童に身近な動画投稿サイトや漫画家の著作物に対する思いなどを素材に授業をすることはよく聞くが、最後に著作権を守るメッセージをCM作成までに展開させていることが素晴らしいと思う。作り手の心情をこれだけ訴えながら、子どもが変容していく実践はなかなかない。5時間扱いで、指導計画もしっかりしている。知識の伝達だけではなく、子どもたちがしっかり考え、そして学習成果を広めるCMづくりを行うことでさらに考えを深めるとともに実践力も身につけている。動画投稿サイトについて小学校高学年段階で学習しておくことは今後の子どもたちにとって大きなことであり、中学校・高校でも生きてくると思う。